

# エール



すばらしいみやぎを創る協議会

《4つの県民運動》

1. 安全で安心なまちを創る運動
2. 心の通い合う地域を創る運動
3. 美しい生活環境を創る運動
4. 地域文化を大切にする運動

## みやぎ花のあるまちコンクール



おめでとうございます

花づくりや緑の育成を奨励することにより「ふれあい」と「思いやり」のある人づくり・地域づくり、そして、美しいふるさと「みやぎ」づくりを目指し「みやぎ花のあるまちコンクール」を毎年、実施しています。  
今年度は16件の応募があり、審査の結果、次の団体が入賞しました。

最優秀賞

多賀城市山王新・花いっぱい推進機構 (多賀城市)



優秀賞 小野地域まちづくり協議会 (東松島市)



優秀賞 友愛町土手クラブ (仙台市)



上郡山自治会館運営委員会 (白石市)



柴田西住生活学校 (柴田町)

審査員特別賞



鷹巣花と緑の会 (白石市)



東南町行政区花の会 (角田市)

もくじ

表紙：みやぎ花のあるまちコンクール受賞作品の紹介

- すばらしいみやぎを創る運動功績者の紹介(団体) 2・3
- すばらしいみやぎを創る運動功績者の紹介(個人) 4
- 県民運動 Topics 4・5
- 犯罪のない安全・安心まちづくり県民運動 6
- 宮城県生活学校連絡協議会の事業紹介 7
- コミュニティ助成団体の紹介 7

裏表紙：あなたのまちのコミュニティづくり

## あなたのまちの コミュニティづくり



皆さんの地域の町内会や自治会などでは、環境美化などのコミュニティ活動が盛んに実施されていることでしょう。そのような活動の中で、こんな施設や備品があったら、もっと活動が活発になるのにと考えたことはありませんか。

一般財団法人自治総合センターでは、宝くじの受託事業費を財源とし、市町村を通じて、地域の町内会、自治会の活動への助成を行っています。

一般  
コミュニティ  
助成

地域的な共同活動に必要な施設・設備の整備事業への助成です。

環境美化・文化学習・体育・レクリエーションなど様々な活動で使用する備品が対象となります。



塩竈市 (大日向町内会)

コミュニティ  
センター  
助成

地域住民の共同活動の拠点となる多目的な総合施設の整備事業への助成です。

コミュニティセンター新築及び修繕、その施設に必要な備品などが対象となります。



加美町 (小泉区)

青少年  
健全育成  
助成

青少年の健全育成を目的に地域で実施する親子参加型のソフト事業への助成です。

各種野外活動の実施、スポーツ・レクリエーション大会の開催などが対象となります。



利府町 (利府町図書館)

本事業に関する  
お問合せは

宮城県環境生活部共同参画社会推進課

電話 022-211-2576

ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kyosha/comijyo.html>

または、各市町村コミュニティ担当課までお気軽にお問い合わせください。

(仙台市を除く。)

平成31年3月発行 第64号

発行/すばらしいみやぎを創る協議会

仙台市青葉区本町三丁目8番1号 宮城県環境生活部共同参画社会推進課内

TEL 022 (211) 2576 FAX 022 (211) 2392

安全で安心なまちを創る運動  
地域文化を大切にす運動

## 平成30年度すばらしいみやぎを創る運動功績者

### 【団体の部】 受賞者紹介

#### 震災語り部の会フツタリ（巨理町）

「震災の記憶を後世に語り継ぐことで、多くの方に防災意識を持ってもらいたい。」ご支援をいただいた全国の方々に復興への道を歩んでる姿を見ていただけたら。」という思いで平成二十四年に発足し、翌年から震災語り部のガイド活動を開始されました。町民によるボランティアで構成されている団体です。今回は会長菊池敏夫氏、副会長岡崎由紀子氏、会員鈴木郁子氏にお話を伺いました。



震災語り部の会フツタリの皆さん  
向かって左が鈴木氏、中央が岡崎氏、  
右が菊池氏

#### 語り部への使命感！だれかがやらねば

巨理町は冬はあたたかく、夏は心地よい海風が暑さを和らげてくれる。暮らしやすい土地である。二〇一一年三月十一日、東日本大震災が発生した。「遠浅の海は威力を消すので津波は来ない。」荒浜地区には言い伝えがあった。三陸大津波やチリ地震大津波でも大きな被害はなかった。「約四百年前の慶長三陸大津波では、今回と同じ規模の災害が起きている。それは語り継がれてこなかった。だから、今回は語り継がないといけないのです。」

「津波から逃げて無事だった人たちにも迷いや苦しみがあつた。」と語るのは副会長の岡崎氏。震災後にも何度か強い余震に見舞われた。岡崎氏はそのときに生きる気力を失ったのは、絶望のどん底にいた岡崎氏を救ったのは、人命救助をしていた「子息の」

「助けられない命があつた。だから生きてくれ。」

「約四百年前の慶長三陸大津波では、今回と同じ規模の災害が起きている。それは語り継がれてこなかった。だから、今回は語り継がないといけないのです。」

「津波から逃げて無事だった人たちにも迷いや苦しみがあつた。」と語るのは副会長の岡崎氏。震災後にも何度か強い余震に見舞われた。岡崎氏はそのときに生きる気力を失ったのは、絶望のどん底にいた岡崎氏を救ったのは、人命救助をしていた「子息の」

「助けられない命があつた。だから生きてくれ。」

心の通い合う地域を創る運動  
地域文化を大切にす運動

### 運動普及リーダースマイルヘルスサポーター（岩沼市）

平成十八年度に市の養成講座を受講し「スマイルヘルスサポーター」として活動を開始されました。健康づくりのため、運動習慣を身につける活動に取り組んでおられます。活動実績は、老人クラブ等各種団体に対する出前講座の実施や、岩沼市民夏まつりでの活動の披露、市の生活習慣病予防に関する事業や健康づくり運動普及DVD作成へ協力など。震災後は避難所での健康ボランティアや週一回の運動教室を実施し、平成二十六年には「花は咲く」に合わせた体操を考案するなど、多岐にわたる活動をされています。今回はメンバー全員にお話を伺いました。



運動普及リーダースマイルヘルスサポーターの皆さん  
左上から那須氏、井上氏、菊池氏、鈴木(禮)氏  
左下から佐藤氏、齋藤氏、竹谷氏、鈴木(蘭)氏

#### みんな笑顔で活動しているそれが元気の源

運動普及リーダースマイルヘルスサポーターが活動する岩沼市は、かつては街道の分岐点の宿場として栄え、現在も交通の要衝である。また日本三稲荷として有名な竹駒神社が勧請されるなど、古くから重要な場所であった。

#### 自分の健康は自分で守る！

「元々は自分の健康維持のために始めた。」  
とのこと。現在では、運動の楽しさを広め、市民に運動習慣を身につけて欲しい、という思いでボランティア団体として活動をしている。平均年齢は七十五歳。活動している姿は驚くほど若々しい。活動の前提として、自らの健康がある。

活動を始めて心に残っていることは？との問いに対しては、震災の時に仮設住宅を回った時の話を聞かせてくれた。心身

活動していたメンバーには被災者もいた。  
「自分の家も津波で浸水した。大変だったが、うちのことは二次だと思っただけでよかった。仮設住宅の方の笑顔が見られて嬉しかった。」  
と話す。活動をしていて楽しいことは？との問いには  
「ニコニコしながら活動する。ときには世間話、ときには情報交換。それが楽しい。元気の源。」  
いつまでも元気な、多くの人々の健康づくりを応援する活動を続けて欲しい。

### 平成30年度すばらしいみやぎを創る運動功績者(団体) 敬称略

#### 伊里前契約会(南三陸町)

1693年に結成されて以来、325年以上獅子舞の保存団体として継承活動を行っています。弘川ダム湖命名式(平成24年)、三陸自動車道歌津インター開通式(平成29年)、例大祭(平成30年)で披露するなど精力的に活動し、ここ2～3年は歌津中学校の授業に獅子舞を盛り込み発表会を行うなど、心の通い合う地域づくりに貢献すると共に地域文化を次世代へ継承する運動に尽力されました。

#### 下区老人クラブ友和会(加美町)

子供会と一緒に石神公園のゴミ拾いを行い、ゴミ拾い終了後にグランドゴルフなどを実施し、子供の健全育成と世代間のコミュニケーションの醸成に努めていらっしゃいます。また地元団体と連携し、「マコモの植栽やビオトープの生き物調査」等を行い、農村環境の多様性を学び、情操教育に寄与するなど世代間で心の通い合う地域を創ることに貢献すると共に、美しい生活環境づくりに尽力されました。

#### 復興に向かって 「前進あるのみ」

語り部の方々を話しているうちに巨理の発展に尽力した伊達成実に思いを馳せた。冒険にも出てきた慶長三陸大津波が起きたときの巨理領主である。成実の兜には毛虫がついている。「毛虫は決して後退しない、前進あるのみ。」ということから心意を表したといわれている。成実と震災から復興に尽力している震災語り部の会フツタリ。重なるところがあるように感じる。「命の大切さ」を語り継ぎ、前向きに歩んでいく。

多くの人たちに命の大切さを伝え、その命を守る策を伝え、より多くの人が防災意識を持って暮らし、復興の道を進んでいく姿を見ていただきたい



被災体験を防災の力にする。ご支援いただいた全国の皆様へ復興の道を進んでいく姿を見ていただきたい

### 県民運動 Topics

## 第52回 すばらしいみやぎを創る運動「県民のつどい」 ～安全・安心まちづくりフォーラム～

明るく住みよく安全で  
安心な地域社会を目指して



鎌田会長より受賞者に  
表彰状を授与



今年度で第五十二回を数える  
すばらしいみやぎを創る運動  
「県民のつどい」を平成三十年十  
一月十六日にホテルメトロポリ  
タン仙台で開催しました。  
県内各地のまちづくりリリー  
ダーや防犯団体関係者など約  
百九十名が参加しました。  
席上、長年にわたり運動に功  
績のあった一名と四団体が表彰  
されたほか、本年度の「みやぎ花  
のあるまちコンクール」の入賞  
者に表彰状と記念品が贈られ、  
その栄誉が称えられました。

特定非営利団体とめタウン  
ネット/足立千佳子氏の活  
動紹介



千葉大学大学院園芸学研究所  
教授 木下勇氏の記念講演

引き続き、「平成29年度あし  
たのまち・くらしづくり活動  
賞」振興奨励賞を受賞した特定  
非営利活動法人とめタウン  
ネットプロジェクトリーダー  
足立千佳子氏による「ご縁が繋  
がる・広がるまちづくり」と題  
して活動紹介が行われました。  
その後、住民参画のまちづく  
り、都市計画等が専門の千葉  
大学大学院園芸学研究所教授  
木下勇氏が「子どもを進める安  
全・安心まちづくり」と題して  
「食べられる景観」の事例発表  
など、住民参加型まちづくりの  
成功例などを交えた講演を行  
いました。

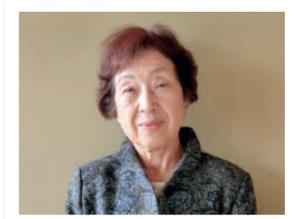
心の通い合う地域を創る運動  
美しい生活環境を創る運動

## 平成30年度すばらしいみやぎを創る運動功績者

### 【個人の部】受賞者紹介

#### 米竹 知賀子 氏(柴田町)

平成十七年より柴田町環境審議会委員、平成二十五年より柴田西住生活学校委員長、また、柴田町住民自治によるまちづくり基本条例審議会委員を三年間務められました。地域で花苗の植栽や雑草の清掃を行うなど、花いっぱい運動・清掃活動に長年取り組んでおられます。また、柴田西住生活学校の会員として「現在は委員長」敬老会のボランティア活動を実施され、使わなくなった生地を使って巾着や眼鏡ケース、手提げバッグ、お薬手帳などを作り敬老会のお祝いの行事にてプレゼントするなど、様々な活動を通して地域に貢献されています。



米竹知賀子氏  
現在は柴田西住生活学校委員長を務める

米竹氏が居住する柴田町は、仙台市から南へ約二十五キロの位置にある。町を囲む丘陵が蔵王山から吹き下ろす北西風を遮り、また海からの風の影響を和らげてくれることからとても過ごしやすい地域である。

#### 素晴らしい先輩たちに 支えられてここまで来た

米竹氏が委員長を務める柴田西住生活学校の基本テーマは「日常を見直し、環境に優しい暮らしを目指す。」

多様な活動を通し、様々な角度からアプローチをしている。その一つが微生物を活用した汚染浄化である。

生活学校の会員数は約四十名。年齢層は幅広く、四十代～八十年代の方まで幅広く活動している。委員長としてまとめるのは大変ではないですか？との質問に「尊敬出来る先輩方に助けられて活動している。委員長をしていて苦に思ったことはないです。」と話す米竹氏。その謙虚な姿勢が

して呼ばれることもある。「と目を細める米竹氏。この取り組みによって水質が改善され、メダカの生育も確認された。その他、区民や地域の小学生と花を植えるなど、着々と活動を若い世代につなげている。昨今、次世代に継承していくのが難しい世の中。自然に無理なく地元の子ども達と共に活動していけるのはなぞだろっか。」



使わなくなった生地を使って様々なものを制作する(左手前)



花壇や公園などにおいて花苗の植栽や雑草の清掃を行っている(右)

生活学校のあり方で、次世代に活動をつなげていく秘訣なのではないか。これからも様々な活動を通して、若い世代と共に地域に貢献してほしいと願う。

### 県民運動 Topics

## 平成30年度すばらしいみやぎを創る運動 推進委員会研修会

地域づくりに取り組む  
推進委員の資質向上を図る



石巻市で開催した研修会の様子

東北会場と県南会場の2会場  
平成30年度すばらしいみやぎを創る運動推進委員会研修会を行い、地域づくりに取り組む推進委員をはじめ関係者等にご参加いただきました。  
平成三十年八月二十二日、石巻合同庁舎にて、丸森町の筆甫地区振興連絡協議会事務局局長吉澤武志氏を講師にお迎えし「住民一丸となった筆甫の取り組みについて」と題してご講演いただきました。交通アクセスや少子高齢化をはじめ課題はありますが、楽しんで実践する住民の絆や心の豊かさの大切さを学びました。



大河原町で開催した研修会の様子

平成三十年八月三十日、県大河原合同庁舎にて山形県東置賜郡に所在するNPO法人きりよしじまネットワークサブマネージャー小形崇洋氏を講師にお迎えし「持続可能な地域運営組織の形成と求められる人材育成」と題してご講演いただきました。地域に貢献できる人材育成の大切さを学びました。  
両日とも講演終了後に、各地区警察署生活安全課から被害が後を絶たない「特殊詐欺被害状況について」最新の情報をもとに被害に遭わないためのポイントをわかりやすくお話しいただきました。

### 県民運動 Topics

## 宮城県福祉施設防犯訓練開催

すばらしいみやぎを創る協議会が  
「宮城県による委託業務」を実施

平成28年7月に神奈川県相模原市の障害者入所施設で発生した殺傷事件を受けて、県では社会福祉施設に対する訓練の実施、地域との交流等を奨励することとしており、さらに、各種施設の管理者等に向けた防犯マニュアルである「犯罪のないみやぎ安全・安心まちづくり各種防犯指針」を平成30年1月に改定し、新たに福祉施設に関する項目を加えました。こうした背景から県内の福祉施設の職員向けの防犯訓練を実施することで、各施設における防犯に対する体制の向上を目指しています。



防犯指針の説明の様子(和風園)



福祉施設防犯訓練の様子(和風園)

平成三十一年二月十九日に黒川郡大和町に所在する特別養護老人ホーム和風園、平成三十一年二月二十八日に石巻市に所在する市立蛇田保育所の二箇所において、福祉施設防犯訓練を実施しました。  
不審者情報の共有などを通じて地域と一体となり防犯意識の向上を目指すことから、県内の福祉施設職員のほか、市町村、地域の防犯団体、町内会の方々も参加しました。  
訓練でははじめに「犯罪のないみやぎ・安心安全まちづくり各種防犯指針」を説明し、警察協力のもと不審者対応訓練、防護、制圧訓練を行いました。当日は防犯設備士協会等による防犯用品などの紹介をいただきました。  
地域の連携が深まり、訓練を通じて、地域の見守り活動の推進にもつながれば幸いです。

すばらしいみやぎを創る運動を実践している団体「宮城県生活学校連絡協議会」

## 平成30年度 「宮城県生活学校運動大会」開催

今年度から登録制出前講座（講師派遣）を広めるための活動をしている県生活学校。登録された講師が決められた日時・場所に出向き、さまざまな分野の講義を行う、生活学校のメンバー向けの講座です。資格の有無は問わず専門知識や技能、経験などを活かし、指導ができる方を募集し、自分の得意分野を生かして文化、芸術、教養、技術、趣味、健康、生活、スポーツ・レクリエーション、社会、体験談等広めるための活動をするのが目的です。



白石EMまどか（円）クラブ生活学校に指導され、長生き音頭を踊るメンバー



後半は仙台市泉ひまわり生活学校の講師のもと、レクリエーションを楽しむ



会場内に各生活学校の作品を展示



大会の挨拶をする祝前会長



登録制出前講座につながる各単位の発表の場を設けた

平成30年度宮城県生活学校運動大会が一月二十二日東京エレクトロンホール宮城に県内十六校の生活学校から約八十人のメンバーが参加して開催されました。県生活学校連絡協議会では「登録制出前講座」の登録を推進しており、午前の部では各学校から出前講座のできる人材の発掘を目指し、発表と作品展示の場を設けました。午後の部では実際に出席講座ができる講師の下、脳トレやレクダンス、長生き音頭を実際に楽しみ、盛会裏のうちに大会が終了しました。



宝くじ普及広報事業「コミュニティ助成事業」で備品を整備した団体紹介

### 『富谷市 明石台第六町内会』

当町内会は、平成16年度に設立されました。市南部（仙台市に隣接）の新興住宅団地に位置しており、会員数は個人会員494世帯、法人会員18社です。法人会員に恵まれていることと、児童数の増加で小学校が新設（平成27年度）されたことに伴い、東向陽台小学校と明石台小学校の二つの学区に跨っていることが特徴です。

町内の「スマイル子ども会」は、会員数約180名を誇る大きな団体で、町内会と子ども会が連携して「六ちよこ祭り」を秋に開催しています。子ども達の手作りポスターを各所に掲示、子ども神輿の巡行、各種出店に大抽選会等、大人と子どもと一緒に楽しめる一大イベントとなっています。若い世帯が多く、「ゆとりすとサロン」は小規模ですが、年10回程度、季節に合わせた行事（お花見、芋煮会、クリスマス等）や、時には運動を取り入れ、健康推進と交流を目的に活動しています。また6月には、近隣町内会と「敬老会」を合同開催しており、町内の絆を超えた交流イベントとなっています。

当町内会は近隣町内会と比べ、「会館内が充実していないこと」が悩みでした。定例会議を月2回開催していますが、スピーカー付ポータブルアンプとマイクがある程度で、

各役員が作成した資料を自宅で印刷（人数分コピー）し、会議に臨んでいました。今回の助成では、会議のペーパーレス化を図るため、パソコンをはじめ、映像機器（大型ディスプレイ）や音響機器（PA）等を整備させていただきました。会議中にリアルタイムで資料の更新、周知も可能となり、会議開催の効率化につながりました。今後は、町内会の各種イベントでの活用も検討し、より一層コミュニティ活動を充実させていきたいと考えています。



備品を使用した役員会の様子

## 犯罪のないみやぎ 安全・安心まちづくり県民運動



宮城県では、「犯罪のない安全・安心な地域社会の実現」を目指した県民運動を推進しています。安全に安心して暮らすためには、行政や警察の活動に加え、県民の皆さんが、「自らの安全は自らが守る」、「地域の安全は地域で守る」という意識をもってまちづくりに取り組むことが重要です。県民の皆さん一人ひとりが手を取り合い、協力して、安全・安心まちづくり県民運動を進めていきましょう。

### 「犯罪のないみやぎ安全・安心まちづくり活動リーダー養成講座」を開催しました。

■平成30年11月8日（木） ■柴田町槻木生涯学習センター（柴田町）

犯罪者は、犯罪がうまくいきそうな場所を探した上で犯行に及ぶことが多いとされています。具体的には、「入りやすい場所」・「見えにくい場所」が「犯罪が発生しやすい場所」とされており、「地域安全マップ」は、その危険な場所又は安全な場所を写真とともに地図にまとめたものです。本講座では、立正大学の小宮信夫教授を講師としてお招きし、「犯罪が発生しやすい場所」に着目した「犯罪機会論」に関する講義後、まち歩きとマップづくりを行い、危険な場所を察知するための視点を学びました。※本講座は、地域住民を対象に、宮城県と市町村の共催により開催しています。開催を希望される場合は、お住まいの市町村にお問い合わせ下さい。



まち歩きの様子



地域安全マップづくりの様子



完成した地域安全マップ

### 「安全・安心まちづくり地域ネットワークフォーラム」を開催しました。

■平成30年9月5日（水） ■石巻市河北総合センター（石巻市）  
■平成30年11月29日（木） ■ホテル原田inさくら（柴田町）

各圏域における安全・安心まちづくりの活動に自主的に取り組んでいる、防犯関係団体や学校関係者、行政職員などが集まり、情報交換や事例発表を行うフォーラムを開催しました。



#### 基調講演

「子どもを犯罪被害から守るための基礎知識」  
講師：仙台大学体育学部 准教授 田中 智仁氏



#### 事例発表

「大河原ながら見守り隊」（大河原町総務課職員）  
活動を希望した住民が、散歩や買い物などの日常生活を行いながら、子どもの見守り活動を実施している様子を紹介。